



# 自然観察

No. 96  
2010  
9月

## 目 次

|                              |    |
|------------------------------|----|
| ・ 2010年度全道研修会報告 その一          | 2  |
| ・ 全道研修会参加者の声                 | 3  |
| ・ 第21回滝野の自然に親しむ集い 実施報告       | 4  |
| ・ ヒグマを知ろう 第二回 高い学習能力         | 5  |
| ・ 地方研修会in旭川のお知らせ             | 7  |
| ・ フィールドニュース 美瑛町、手稲区、小樽市、厚沢部町 | 8  |
| ・ ウォッチングレポート                 | 10 |
| ・ 会計からのお願い                   | 13 |
| ・ 参加者の声                      | 14 |
| ・ ウォッチングプラン                  | 15 |
| ・ 事務局だより・理事会だより              | 16 |
| ・ 連絡先他                       | 16 |



サワギキョウ

2010/ 7/ 24 サロベツ原野

2010年度全道研修会報告 その一

平成22年7月24・25日実施された「夏、道北の特定植物群落7ヶ所を巡る全道研修」の概要は次のとおりです。この全道研修は、北海道自然観察協議会会員も所属し地域のカタクリ保存活動等を積極的に展開している端野自然愛好会との共催で行われました。

参加者は35名、札幌、北見、帯広、稚内、旭川、月形などからの参加により行われました。

(横山 武彦)

1、研修テーマの「道北の特定植物群落」について

特定植物群落は、自然環境保護法に基づき環境庁が昭和48年(1973年)より行っている「自然環境保全基礎調査」の一環として実施した「特定植物群落調査」で保護上重要な植物群落として選定されたものです。昭和53年度に、国内の植物群落のうちで、原生林、湿原植物群落、高山植物群落、社寺林、武蔵野の雑木林のように郷土景観を代表する植物群落など、学術上重要なもの、保護を必要とするものなど、選定された植物群落の全国合計は3,834か所、北海道のものは115か所。その後、平成9・10年度の第5回調査までに新たに選定されたものを含め227か所あります。(詳細は「第5回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」[http://www.biodic.go.jp/reports2/5th/vgt\\_toku/5\\_vgt\\_toku.pdf](http://www.biodic.go.jp/reports2/5th/vgt_toku/5_vgt_toku.pdf) を参照してください。)

今回観察した7つの特定植物群落は、観察した順にサロベツ原野(豊富町・幌延町)、浜頓別ベニヤ海岸草原群落(ベニヤ原生花園)、浅茅野湿原植生・モケウニ沼オゼコウホネ群落(猿払村)、浜頓別クッチャロ湖湿原植生、浜頓別のミズナラ海岸林、斜内山道付近海岸崖植物群落(浜頓別町)でした。

道北には、これらのほかに、礼文島北方植物群落(礼文町)、利尻岳高山植物群落(利尻町)、稚咲内砂丘林および湖沼群(稚内市)、珠文岳～ポロヌプリ山高山植生(浜頓別町・中頓別町・枝幸町)、キモマ沼オゼコウホネ群落(猿払村)、猿骨沼周辺の湿原(猿払村)、猿払川中流の湿原(猿払村)、東浦(宗谷丘陵)自然林(稚内市)、知来別・アカエゾマツ林(猿払村)、声間ミズナラ矮生林・トドマツ林(稚内市)、宗谷丘陵ササ草原(稚内市)、東浦トドマツ林(稚内市・豊富町・猿払村)、稚内～抜海丘陵ササ草原(稚内市)、北大天塩地方演習林蛇紋岩地帯アカエゾマツ林(幌延町)があります。これらの特定植物群落は、わが国の植物相を具体的に形づくっている植物群落のうち、規模や構造、分布等において代表的・典

型的なもの、代替性のないもの、あるいはきわめて脆弱であり、放置すれば存続が危ぶまれるものなどの種類やその生育地、生育状況等を把握し、保護対策を検討する必要があるとして、環境省が貴重な群落として都道府県ごとに選定したものです。

2、サロベツ原野

利尻礼文サロベツ国立公園のサロベツ湿原は国内最大級の湿原で、豊富町と幌延町にまたがり、標高3～7m、面積2,560haが2005年11月、ラムサール条約登録湿地となった。広義の湿原は14,600ha、1960年代以降の大規模開発で乾燥化し減少しました。

湿原は、南北に走る砂丘で日本海と隔てられ、湿原中央部には、ミズゴケ群落の発達が顕著であるだけでなく、ナガバノモウセンゴケを含むミカヅキグサ群落、ナガバノモウセンゴケ・ウツクシミズゴケ群落、ヤチスゲ群落、ホロムイイチゴイボミズゴケ群落、ツルコケモモ・ホロムイイスゲ群落、ヌマガヤ・ホロムイイスゲ群落など高層湿原・中層湿原・低層湿原が同心円上に発達しています。ミズゴケ堆は高さが20～30cmに及び、多くの湿原性ラン科植物の分布の北限地となっています。

世界最小の哺乳類といわれているトウキョウトガリネズミ、氷河期の生き残りといわれているコモチカナヘビなど稀少種生息地で、パンケ沼・パンケ沼は水鳥の繁殖地、渡り鳥の中継地であるとともに、シマアオジや国内では道北でのみ繁殖しているツメナガセキレイなどの生息地でもあります。

サロベツ原野の観察は、利尻岳を遠望できる好天のなか、第1日NPO法人サロベツエコネットワークの佐々木伸宏さんと豊富高校の二人のボランティアガイドの生徒の案内で、豊富町側と幌延町側(長沼、パンケ沼)で行われました。

開花していたものとして、タチギボウシ、ノハナショウブ、ノリウツギ、ミカヅキグサ、モウセンゴケ、エゾチドリ、ホソバノキノチドリ、ツル

コケモモ、ヒメカイウ、ドクゼリ、ナガバノシロワレモコウ、コバノトンボソウ、ヒメシヤクナゲ、クサレダマ、オゼコウホネ、ネムロコウホネ、コウホネ、エゾノヒツジグサ、クロバナロウゲ、サワギキョウ、クガイソウ、エゾミソハギ、オニシモツケ、アキカラマツ、クサフジ、アキノキリンソウがみられました。

環境省の地元事務所の主催によりサロベツ原野でホタルを見る会が開催されていました。夕食時に重なり、5名が参加。参加者からはよいホタル観察ができたとの感想が寄せられました。

なお、豊富町のサロベツ湿原ビジターセンターは来年度からは豊富町の市街地に近い箇所に移転し、現在観察した湿原は今年限りで観察できなくなるとのことでした。（次号へ続く）



湿原の木道で利尻富士をバックに豊富ビジターセンター



## 全道研修会 参加者の声



### 全道研修会「道北の自然」に参加して

旭川 八木 正和

私は夏場は稚内に住んでいまして、タイムリーにも道北の宗谷をメインとした研修がなされるということで参加させて貰いました。

仕事の都合上、会の期日が近くなって申し込んだにもかかわらず、須田さんの配慮により実現しました（あいにく翌日の研修には出られませんでしたが）。当日は、2～3日前まで悪天候だったのがうそのように、快晴の青空で、参加者の日頃の行いがよいこととNOCの活動の結果と思えました。

まず、サロベツビジターセンターに行き、DVDを鑑賞し、原生花園の四季や広さを学びました。次に、ガイドして下さるNPO法人サロベツエコネットワークより、元環境省のレンジャー・佐々木さんと、稚内のカリスマネイチャーガイド花柄クジラこと、疋田女史の案内で木道を散策しました。佐々木さんの学習的な語り口と、疋田さんのシャレの入った語り口がマッチして、短い距離でしたが、約1時間半があつという間に過ぎました。すでにエゾカンゾウ等の季節は終わりましたが、タチギボウシが大群生しており、ガイドの方の言う通り、花の高さより見ると、広大な土地が青一色に見え、まるでラベンダー畑にいるようでした。途中では、トガリネズミの永眠も見られました。利尻富士をバックに、国立公園の看板のところで集合写真を撮影し、幌延ビジターセンターへ向かいました。

こちらでは、ネムロコウホネが良く咲いていました。途中よりジュンサイ沼を横に見て、木道を

散策していると、びっくりする出来事が遠くに見えました。アカエリカイツブリのペアがたたずんでいました。双眼鏡でずっと見ていましたが、子どもが親の背中にいる様子は見受けられませんでした。人慣れしているのか、木道より一番近い場所（約15m）に来て動きません。こんなに近くで見たのは初めてと興奮している参加者もいました。次にパンケ沼に場所を移し、散策しました。ここでもびっくり、コモチカナヘビを見ることができました。

無事一日目は終了し、ガイドさんと別れを告げました。坂の上の雲ロケ地である大規模草地牧場を車窓より眺め、豊富温泉のホテルへ到着、石油のふろに入り、夕食です。私は、この地区のパークボランティアの会員にもなっており、ちょうどこの日は、幌延部会主催のナイトハイキングがパンケ沼であり、行きたい人を募り、参加しました。この催しは、毎年一回、螢の元気なときに行われ、月夜の中、木道を歩きながら、螢を観察するもので、暗いときには、真っ暗になり、前の人から2～3m離れようものなら、何も見えなくなり、自分の五感がとてもためされる体験です。星空と利尻富士のシルエットがやさしく自分を包み、螢も20匹ほど見られ、とても満足しました。

翌朝、ホテル前で集合写真を撮影し（私の本職は写真屋です）、見送りました。

天気もよく、参加者の皆さまの雰囲気がとても良く、久しぶりに違和感なく、心の底から幸せを感じました。須田さん他、参加者の皆さまありがとうございます。皆さんの自然に対する意識がさらに向上するように祈っています。

## 第21回 滝野の自然に親しむ集い 実施報告

畑中 嘉輔

今年度からは滝野自然学園の応募方法が抽選形式になりました。第一希望は通りませんでした。第二希望日が取れたのでますますでした。1日目は好天に恵まれ、予定通りに実施できました。2日目は小雨模様の中、時間を30分程短縮しましたが、自然観察ハイキングを行うことができました。

ハイキングコースは「滝野すずらん丘陵公園」内の新設コース（滝野の森自然博物館）でした。水辺、森、田んぼなど変化に富み、さまざまな生き物や植物が見られることで好評でした。

実施日 2010年 7月31日(土)～ 8月1日(日)  
参加者 一般 21名(子供 12名、大人 9名、8家族中リピーター 3家族)  
指導員 11名、学生ボランティア 1名 計 33名

### 取り組みの経緯

- 5/11 (火) 第1回実行委員会
- 7/ 3 (土) 第1回下見 ハイキングコース（滝野の森）、厚別川、裏山
- 7/11 (日) 第2回下見 ハイキングコース（滝野の森）、計画細部の最終確認
- 7/28 (水) 指導員マニュアル作成発送、学園へ人数変更届け、班編成、保険手続き
- 7/29 (木) しおり、資料、班編成表、アンケート用紙等の印刷、雨天時のビデオ準備
- 7/31・8/1 (土・日) 第21回「滝野の自然に親しむ集い」

### 内容と反省

- ・ 滝野の集いに共育新聞「おしゃべりからず」を見て参加した家族が2家族あった。
- ・ 参加数がもう少しあってもよい。実施時期をあと1週間後にできたら増える傾向にある。
- ・ 新ハイキングコースは昨年度よりもよかった。雨でも歩きやすいし、子どもの喜ぶものが多い。
- ・ 第2回目の下見で厚別河畔の草刈を予定していたがハイキングコース下見をするのが精一杯で当日の朝に変更した。
- ・ せせらぎウォッチングの場所は、工事のため2箇所のうち1箇所が立ち入り禁止。そのため、収穫が少なかった。
- ・ 若い新人の指導員が加わり、いろいろな場面で活躍していた。
- ・ はじめましてゲームは、質問内容が工夫されていたが家族構成までふれる必要はないのでは。
- ・ 野外炊事ではやけどなどだけが人もなく、ご飯は計ったように、ちょうど足りた。
- ・ カレールーが足りなかったようだ。食材を少し多めに注文したほうがよい。
- ・ 星空ウォッチング用に視聴覚センターのビデオ貸し出しを利用できたのがよかった。
- ・ 食堂にハエが多くて不衛生だった。ハエがいやだったとアンケートに答える子もいた。
- ・ ごみの持ち帰りを徹底させることができた。
- ・ 学園のラジカセ、ビデオデッキの調子がよくなかった。



飯ごうで飯を炊く



朝の散歩

# ヒグマを知ろう

## 第二回 高い学習能力 — 行動がエスカレート —

旭川市 山本 牧  
(当会理事、ヒグマの会)

今回もヒグマの食べ物と行動のことをお話しします。なにしろ野生動物の行動原理は、食べ物を得ること、そして外敵から身を守ることに尽きており、時期によってはこれに、繁殖して子孫を残すことが加わります。

上川町では、昨年到现在、またも牛舎内の肉牛がヒグマに襲撃されました。昨年は上川だけではなく、オホーツク管内の遠軽町白滝や北見市留辺蘂でも被害が出ています。



写真1. 2009年8月、ヒグマに襲撃され、重傷を負った子牛 上川町



写真2. 2009年夏、子牛が襲われた牛舎(右)の近くに設置されたヒグマ捕獲用オリ 上川町

ある獣医さんから、「エゾシカが増えたことで、ヒグマが肉食する機会が増え、肉好きになったクマが牛を襲っているのだろうか」と尋ねられました。これはいかにもつながりそうなストーリーなのですが、実際はそんな簡単なものではないように思います。

20年ほど前から道東を中心にエゾシカが急増し、ヒグマが自然死したシカを食べ、時には積極的に襲って食べています。30年ほど前の調査では、ほとんどベジタリアン(菜食主義)だったヒグマの

食性が、シカやサケ類などを摂る肉食に傾いてきているのは、前回お話しした通りです。

上川町や北見地方で牛の被害が相次いだのですが、最も多くヒグマがシカを食べ、しかも放牧中の牛が野外に多い道東では、なぜか被害がほとんど起きていないのです。「シカを食う」→「家畜を襲う」は、可能性はあるものの、単純にイコールではなさそうです。むしろ、食べ物としては、エゾシカと家畜の間には大きな壁、高い敷居があるような感じなのです。

その理由はいくつか考えられます。まず、牛や馬は体が大きく、攻撃が物理的にも、心理的にもやりづらい。上川では、襲われたのは大半が子牛でした。

また、家畜は人間の生活圏にいたので、クマとしては手を出しにくい。しかし、山沿いの放牧地や公共牧場



写真3. 放牧中の肉牛をヒグマが襲って食べた痕跡

は、ほとんどヒグマの行動圏内にあることも多く、これだけではないでしょう。

「食文化」という考え方もあります。生き物は意外に保守的なので、「食べたことがないものは食べない」ということは大いにあります。農耕地の被害でも、熟れたメロンの畑を素通りして、スイートコーンを荒らしに来るヒグマがいます。

なんだかあまり説得力のある理由はないのですが、とにかく、「シカを食うクマは牛も食う」とは限らないことは、現実にそうなのです。

### ■牛舎襲撃の前に

では、上川の場合、なぜ連続襲撃が起きたのでしょうか。地元の農家や役場に聞くと、「なるほど」という事実が浮かんできました。

上川では数年前まで、病死・事故死した家畜を牧場地帯の沢地に埋めていました。「斃<sup>へいじゆう</sup>獣 処理場」といいます。想像されるとおり、地中に埋めた家畜の死骸は、強烈なおいを放ち、ヒグマが何頭もこれを食い荒らしていたそうです。しかし、ここで重要なのは、死んだ家畜を埋め立て地で食い荒らしたヒグマが何頭もいたのに、当時は牧場の牛が襲われることはなかった、という点です。

やがて、産業廃棄物の規制が厳しくなり、この処理場は閉鎖されました。ヒグマたちはどうしたか。



写真4. 飼料タンク下部のゴムパイプをヒグマが引きちぎって壊した跡(右)。左の2つは鉄板で囲いつけている 上川町

すぐに牛を襲ったわけではありません。牧場の牛舎に入り込んで牛の配合飼料を横取りし始めたのです。あちこちの畜産農家で、飼料タンクにつながるパイプラインのゴム部分が引きちぎられ、こぼれた飼料をクマに食べられるようになりました。ある農家は、「タンクの下に流れ落ちた飼料が山盛りになり、そこにクマが座り込んでせせと食べていた」「牛舎に行くと、通路側にクマがいて、牛のえさ箱に頭を突っ込んで食っていたので大声で追い払った」といいます。

餌荒らしをしたクマは、大小いろんなタイプがいて、どうやらこの地域のヒグマの多くが「牛舎に行くと食べ物がある。それほど危険はない」という「学習」をしてしまったようなのです。

実は昨年秋、子牛が襲われた牛舎のすぐ近くで、大きなヒグマが箱ワナにかかり、射殺されました。しかし、被害牛舎に残されたクマの体毛とこのクマのDNAは一致していません。つまり、実際に襲撃をしたクマは別において、まだ生きていますと考えられます。

こう見ていくと、単純に「肉の味を覚えると家畜も人間も襲う」というシナリオは、ちょっと違うようです。むしろ、「牧場近くの処理場で牛の死体を食べる」→「処理場閉鎖後は牛舎の餌を荒らす」→「大胆になって牛舎の子牛を襲う」という風に、行動がエスカレートしていったと考えられます。ヒグマ全般が自動的に変化するのは自然観察 96号 (6)

く、個々のヒグマがそれぞれの体験と学習によって、行動と食性を変えていくと考えられるのです。

### ■小さな被害でも大きな前兆

これは、ヒグマの被害防止策の上では、大事なところ。重要なのは、「肉の味を覚えさせない」ということではなく、「人間の周囲に近づくような行動を起こさせない。前兆があれば、被害が小さくてもきちんと対処する」ということなのです。

上川の場合、畜産農家は飼料タンクのゴムパイプを食いちぎられないよう、鉄板で覆ったりしていましたが、本当に必要だったのは「ヒグマを牛舎に近づけない」「しっかり追い払う」対策だったのです。労力と費用はかかりますが、電気牧柵などで周りを囲むことが有効だったのでしょうか。我慢できる被害だからと、放置しておく、より深刻な被害に行動がエスカレートしてしまうのです。

これはキャンプ場や農地の生ゴミ荒らしとも共通します。弁当の残り物や墓地のお供え、廃棄農産物などに味をしめクマは、より人間に近づき、時には人を恐れなくなります。すぐに人を襲うわけではありませんが、不意のアウトパシによって、事故を起こす危険性は高まります。



写真5. クマが生ごみを荒らして味を覚えないうように、ロック機構付きのふたを備えた鉄製ごみ箱。「ヒグマの会」が考案し、長野県軽井沢の別荘地で使われている

ヒグマの生活圏である山の中では、姿や足跡を見つけても、大したことはありません。そこをそっと離ればいいのです。しかし、人間の生活圏近くに痕跡がある場合、それが単に通り過ぎただけなのか、何かクマを呼び寄せる食べ物があるのか、調査し、対策をとる必要があります。

誘引物がある場合、そこは人とヒグマの危険スポットになってしまいます。まず誘引物を除去し、時にはヒグマを追い払い、最終手段として駆除せざるを得ない場合もあります。アメリカでは「餌付け行為は、クマを殺すことと同じだ」という警告があります。

野外活動で残飯を残さないことは、自分自身や

次に来る人の安全を保つだけでなく、ヒグマに危険な行動をさせない、ということでもあるのです。「ヒグマに出会ったら、食べ物をやって逃げる時間を稼ぐ」と教える例がありますが、そのやり方は、自分はよくても、ヒグマに「人前に出たら食べ物が出てくる」と学習させ、次の人を危険にさらす可能性があるのです。

#### ■次の人を危険にさらす

10年ほど前、「クマよけキャラメル」というものが売り出され、「クマに出くわしたら一粒投げて逃げよう」と書かれていました。発売元はシャレのつもりだったようですが、知床の売店で売られると、本気にする人が現れ、シャレでは済まなくなつて、発売中止となりました。道内の自衛隊演習場では、かつては残飯を土に埋めていましたが、今はレンジャー訓練でも、ポリ袋に空き缶や食べ残しを入れて持ち帰るそうです。

もし、ヒグマが人里近くに現れたら…。それは人を食い殺しに来たわけではなく、独り立ちして間もない若いクマが迷い込んだか、それとも、何か食べ物が引きつけているのでしょうか。まるで殺人犯が脱走したような大騒ぎをするのではなく、「どんなクマが、なぜ来たのか」を痕跡や目撃情報から冷静に読み取ることが、より安全な対策につながります。



写真4. 長野県軽井沢町は、人家付近に出てきたツキノワグマに対し、特別訓練を受けた犬で追跡したり追い払ったりするよう、専門NPOに委託している

問題行動を起こす少年たちに対して、「子供はこんなものだ」と一律の罰則をあてはめ、排除しているのなら、大きな見当違いでしょう。でも、ヒグマ対策の現実には、問題行動の原因や個体を見極めることなく、「その辺にいるクマを殺してしまえ」という乱暴なやり方に終始していることが多いのです。

ヒグマは1頭1頭が個性的であり、学習能力が高い生き物です。そのため、「クマとはこんなもの」というひとくくりの対策ではなく、問題が起きた現場を調査し、個体識別をしたうえでその原因を探って対応策を考える必要があります。そうした対処ができる専門要員が各地域にいることが重要なのです。

## 地方研修会 in 旭川のお知らせ

### 「森を読もう、楽しもう」

日時： 10月16日(土) 10:00~15:00

場所： 旭川市神楽岡公園 (JR旭川駅から3km、忠別川対岸)

集合： 公園内の「旭川市緑の相談所」前

交通： 事前申し込みに関り、JR旭川駅から開始20分前に車で送迎をします。  
車の方は緑の相談所駐車場に直接おいでください。  
市内バスは「あさでん」82番、上川神社前下車。

講師： 松田利一さん、観察協議会旭川の会員たち

内容： 神楽岡公園は、開拓以前の樹林が残されている丘の森です。ここをフィールドに、森と樹木を活用するさまざまな自然ゲームを手ほどきします。また、森林の成り立ちや自然界のつながりを考える「森を読む」の時間もあります。種名解説だけではなく、ひと味違う観察会のスキルを磨いてみませんか。

交流会： 研修会終了後に「緑の相談所」で短時間懇親交流会を開きます。

備考： 小雨決行。参加費300円。弁当、雨具、筆記具など持参。

申込： 10月10日までに原部 (ファクス0166-37-2462) へ。

当日連絡は原部 (080-6092-4347)、山本 (090-8903-3001)。

**「嵐山」から「突哨山」へ**

美瑛町 堀内 重夫

職後11年。ワイフの親の隣にウサギ小屋を建てて住み、国家公務員（年金労働者）として、悠々自適の世界に入る。いつでも糞の出来る世界はイイもんだ！（無限の時間がある）

無農薬の野菜を食べようと、土作りや虫との格闘をしているがこれがなかなか大変である。鱗茎の一枚一枚が農薬と言われているタマネギの苗を友人からもらい、毎日虫取りをした結果できたタマネギは自慢でした。

また、周囲の環境整備もかなりの量があり、これ又一筋縄ではいかない。毎日というか毎週というか本当に草取りや刈り払いがかなりの時間を占め、最近の木イチゴの収穫が日課となってきた。

健康と体力維持のため始めたクロカんと、夏のジョギングで健康維持を図り、在職時より約10kg減量に成功！健康を誇っているが、ものごとへのめり込む性格なので体をこわすのではないかと少し心配である。昨年、痛風を病み、その後尿酸の薬を常用している。

今年の6月に「ヘルシーマラソン」のハーフに参加したが、当日全国一（旭川市30℃、富良野市31℃）という猛暑でダウン、フラフラしながらゴール、その後生まれて初めて点滴を受ける。もう年か！（自分のことばかり・・・）

NACS-J（NOCの全国版）の活動は殆どしないが、最近旭川市でも一部有志の努力により活動が開始され、少しずつ地域にも影響を与えてきている。昨年までは近くの「嵐山」で年間4・5回観察会を実施してきたが、今年からこれも近郊で市民活動でカタクリなどの大群落が守られた「突哨山」の観察会を開始し、過日（7/11）「夏の突哨山」として観察会を計画し実施した。これについては別項で報告があると思われるが、北海道第二の都市としてはまだまだ活動は緒についたばかりと言っても良いと思われる。今後の活動については先輩として協力していかねばならないと思うがどうも怠け者なので今後の活動に協力できるかどうか・・・

またも私事で恐縮だが、最近自宅の近くにフットパス「北瑛古道」を作った。本当は昨年作ったのだが、今年、大蔵省（やや古いか？）に苦情を言われながら道路の整備や看板制作を本職の世話になりながら行い、本日（7/13）看板に屋根を付

け、完成したのでもし興味のある方はいつでも見に来て欲しい。開拓以来の道路を利用し、スプリングエフェメラルが満開の春や湿地性植物、開拓当時の湧水を利用した2ヶ所の水場（飲料可？）が自慢である。

夏休みに向けて本州からの来客が多くなり、ユースピア（青少年交流の家）を抱える町として少しはお手伝いをしている。今後の予定。

1. 7/24 茨城県の小学生42名に星座観察会 ユースピア
2. 8/7 スターウォッチング（全国規模の星空観察会）北瑛天文台
3. 8/17 栃木県の中学生の星座観察会 ユースピア
4. 8/18 同上美瑛町案内 バス利用
5. 8/23・4 旭山植物観察会 緑21の会行事 旭山
6. 9/10 当麻町小学4年生星座観察会 北瑛天文台
7. 9/22 「中秋の名月」観望会 美沢小学校

など、ほどほどに忙しさを楽しんでいる（天体観測ばかり）。秋になったらまたジョギングの延長のマラソン大会に参加予定なので、その準備もしなければならない。また楽しからずや！

（自称：丘の上の仙人）

**桑の葉になぜ、卵形と鉾形があるの？**

手稲区 村元 健治

私の住んでいる手稲区星置は、人口1万6千人弱の札幌市のベッドタウンだが自然が豊かな所だ。最大の魅力は山（手稲山）、川（星置川）、海（ドリームビーチ）が一体となっているところにある。それぞれのフィールドには、そのフィールドに適した動植物・自然があつて魅力は尽きない。緑地も多くミズバショウで有名な「星置緑地」と15haの広さを持つ「ほしみ緑地」がある。

私の家に隣接している「ほしみ緑地」には、緑地のど真ん中を清流「星置川」が流れているが、近年はサケが遡上する川としてつとに知られるようになってきた。

ところで、その「ほしみ緑地」内に生えている自然木の1つに桑の木がある。小さいものから大きなものまでとにかく、かなりたくさん生えている。それらの木をいつも眺めていて大変、気になっていることが葉の形のことだ。

この木の葉には普通の一般木に見られるような卵形（逆ハート型）の葉と鉾形の葉の2種類が見ら



れる。1つの木の葉の中に全く、形の異なる葉があること自体、極めて珍しいことだと思うが、問題は どうしてこのようなことになるのか、不思議でたまらない。出葉のときは、卵形で後に鉾形になるのか、それとも初めから鉾形で出てくるのか、それとも卵形のままで終わるのか良く判らない。

この不思議な現象がどうして起きるのか、どなたかご存知の方は是非、教えていただければと思います。



ヤマグワ 若木の葉

### キタネ浜(本当はオタネ浜)そして鳥たち

小樽市 伊藤 佐保

「今日はオタネ浜で虫捕りだよ！」博物館の生物調査で捕虫網を振り回しに出掛ける私に息子が「母さん、そこってキタネ浜じゃね!？」

小樽市銭函から石狩市厚田までの約30Kmに及ぶ石狩海岸の銭函4・5丁目の一部をオタネ浜と言いました。昭和30・40年代は札幌バスターミナルから「オタネ浜海水浴場行き」のバスが出ていたそうです。また、オタネ部落という集落もあったということです。石狩湾新港が出来るときに石狩町から小樽市に行政区画が変更になり、部落の人たちは皆、引っ越してしまい、今は石碑がそのことを伝えるだけです。

オタネ浜という名前の由来は、アイヌ語の「オタオルナイで「小樽」の名前の由来も実はここにあるのですが、興味のある方はご連絡下さい。

この沼の上空や新川の河口付近上空には、ショウドウツバメが多数飛び交って餌を取っています。彼らは砂丘の崖に営巣しています。ここで生まれ育ったツバメ達は、越冬のためベトナムやタイ国まで飛んでいくことが数年前の野鳥の標識調査で判りました。

ショウドウツバメの巣の上にはハマナス、ハマエンドウ、エゾノカワラマツバ等が美しく咲いて蝶や蜂などの昆虫たちを呼んでいます。それらを踏みつけてバギー車やモトクロスバイクが走り回

ります。冷蔵庫や洗濯機、テレビに自家用車などの不法投棄もあとを絶ちません。おまけに巣穴をペットボトルで塞いでしまうような人もいて、ここはまさに無法地帯です。さらにここに風力発電用の巨大風車が立ち並び、新幹線の車両1両分の長さの羽が新幹線のスピードで回り続けたら、果して今年生まれたツバメの何羽が無事に南を目指すのか？荒野の用心棒はいないのか？

炎天下、キタネ浜で漂着ゴミや打ち寄せられた海藻をひっくり返しヒョウタンゴミムシを探しながら、脳が腸がボイル状態の今日この頃です。

### 地の力・知の力

厚沢部町 加藤 一彦

上りつめたサワグルミの枝先の遙か上空を、アマツバメが大きく旋回し、やがて森の向こうに消えていきました。

窓から見える森は「土橋自然観察教育林」と名づけられた一角です。「教育」という言葉に希望をつないできた人々のことが近頃とみに思い出されます。「つまらない知識を知ると人をバカにする元になる」と言った人がいますが、この森を舞台に「知識」のありようを伝えてくれた人がいました。観察会で質問すると、返ってくる答えが「あー、おれはいい質問をしたなあ」と思わせてくれるのです。

私自身ある人のあの頃に近づいた今、「老人」と呼ぶのは申し訳なくと思いますが、近所に若いころから山に籠り、炭を焼いたり熊うちをして暮らしてきた人がいました。ここから少し離れた場所ですが、ある時地層を中心にした観察会があって、老人は山道の案内役でした。観察会は年代の違う岩盤が接していて「ひと跳び1億年」という場所があったり、とてもたのしいものでした。観察会が終ろうとする時の老人の言葉が忘れられません。「30年も40年も熊うちでこの山は走り回ったけど、そういうことは考えたこともなかったなあ」と。そうなのです。このようなことは、何百回通ったとしてもそれこそ「自然に分かる」ことではないのです。そして、きっかけを捉えた「知識」はそこから知らなかった時間や広がりのある世界を現前させる力をもちうるのです。

今年から「教育林」は教育委員会の担当になりました。身の丈を超えないささやかな力で私に役立てることがあれば役立ちたいと思っています。

エゾニワトコの実が色づいてサビタの花が咲く時季になりました。どのように生きていても、時間は確実に進んでいきます。

小樽市 旭展望台 '10年4月29日

天候 曇 掲載紙 道新、朝日、読売、毎日

## <春一番の草花 多喜二とタキも愛した?カタクリ>

雷雨・強風警報の出ている今にも泣き出しそうな空模様の下、肌寒い風を受けながら多数の参加を期待したのですが、やはり天候には勝てませんでした。

しかし、参加した皆さんは興味深く、熱心に最後まで楽しんでいただけたと思います。

まずツノハシバミの観察。雄花と雌花の確認、雌雄同株、雌雄異株の説明。タラノキとハリエンジュ。セイヨウタンポポとニホンタンポポの見分け方の説明などなど。



蟹工船のお話しも出ます

知らないことがたくさんあって、その話を聞くことができ良かった、また参加したい、開花の時期に気を付けて観察したい、などの声がありました。

(大嶋 正紀 記)

恵庭市 恵庭公園 '10年5月9日

天候 曇 掲載紙 道新、恵庭市広報他

## <春の息吹を感じよう>

今年は天候不順の年で、恵庭公園の植物達も例年に比べると生育が遅い。

とはいえエゾエンゴサク、ザゼンソウ、バイケイソウなどは元気。

いつものあの清楚なアズマイチゲやヒメイチゲの姿がほとんど見られなかったのは寂しい。

公園内には樹齢およそ300年といわれるミズナラの巨木があり、みんなで幹周りを測ってみると、何と5m10cm。木に巻きつくように生えているキノコ類があったが、その自然の織りなす色合いのなんと美しいこと。誰にも作り出すことの出来ない色でした。

参加者はそれぞれに興味を持った自然に接して、今回のテーマである春の息吹を楽しんだのではないのでしょうか。

(富塚 陽子 記)

千歳市 紋別岳 '10年5月22日

天候 晴 掲載紙

## <春の花>

今年は積雪が多く、一週前の下見では、頂上付近の山道の全面に雪の部分が500mぐらいも続いていました。雪がなければ全面簡易舗装のため、特に登山靴は不要で、スニーカーでもよいということにしているのに、今回は雪のための事故が心配でした。

当日は晴れて風がなく、汗ばむ状態でした。植物の方は大体例年通りで、オオバキスミレがいたるところに見られ、エンレイソウ類やネコノメソウなどの花が咲き、芽生えて間もない種々の草、登るにつれて変化する木々の芽吹きの違い。

見下ろせばうす緑色の木によるかたまりの様子(春紅葉)は見ごたえのあるものでした。

雪も100m程に減少しており、事故もなく、満足した様子で終了しました。

(谷口 勇五郎 記)

北区 屯田防風林 '10年5月23日

天候 快晴 掲載紙

## <春の屯田防風林>

朝から快晴に恵まれ、少し風がありましたが、暖かな陽気となりました。

森の入口より、札幌景観賞の碑を横切り新緑の森へと向かいます。イワミツバ、ハイキンポウゲ、ホウチャクソウ、在来種エゾタンポポの小群落では、帰化植物セイヨウタンポポとの見分け方、日本に持ち込まれた経緯、セイヨウタンポポの優位性などについて詳しく説明。

レンプクソウ、オオタチツボスミレ、マイヅルソウなどの草本、ヤチダモ、自生種と思われる大木のシロヤナギ、エゾヤマザクラ、シラカバ並木、ナナカマドなどの樹木。

この観察会を通じて、地域住民をはじめ、私達は森の生き物達とどのように係わり合っているのか、少しでも理解することができれば幸いですと締めくくり観察会を終了しました。

(池田 政明 記)

小樽市 小樽海岸自然探勝路 '10年5月23日

天候 快晴 掲載紙 道新、朝日、読売、毎日他

## <初夏の国定公園景勝地を歩く>

快晴に恵まれ探勝路約5kmを踏破する。まずツタウルシを識別できるよう軍手で保護する。

ヒメオドリコソウやオオイタドリに始まり、オニシモツケなどと出会う。

山中海岸、オタモイ、赤岩山への分岐点広場でラジオ体操をして準備運動とする。

エゾユズリハ、オオカメノキ、ホオノキ、フデリンドウなど、エゾハルゼミにも出会い初夏の新緑、森林浴を楽しんだ。

展望台からはオタモイ海岸から遠く忍路、余市、積丹海岸、積丹岳の残雪を眺め、ウグイスの声を聞きながら昼食をとる。

奇岩景勝地に咲き輝いているツツジに感嘆。終わりにはエゾタンポポとも出会え満足。

(本間 正一 記)

#### 当別町 医療大学 '10年5月29日

天候 晴 掲載紙

##### <春の花と新緑の木>

晴れわたり気温も上がって、快適な観察会日和でした。観察地は医療大学の薬草園を含む裏山の丘陵地です。

同大学の堀田先生が先頭に立ち、かつてはササに覆われていたこの土地を、時間をかけてササを刈り、野草を保護した経緯や専門の漢方についてのお話を交えて、開花した花や木々について案内していただきました。

マムシグサ、エンレイソウ、オオカメノキ、ヒトリシズカ、ルイヨウショウマ、サルメンエビネ、ノビネチドリ、アオチドリなどのラン。水辺にはエンコウソウ、ミツガシワなどを見ることができました。

短時間ながら、収穫の多い観察会でした。

(林 迪子 記)

#### 豊平区 森林総研 '10年6月5日

天候 晴 掲載紙

##### <初夏の森林総研を散歩しよう>

今年の森林総研の森は倒木が多く、あちこちの林道が立ち入り禁止になってしまい、予定が狂ってしまいました。コースを前年度よりも縮小して2kmの一周コースを取りました。

はじめは樹木園の木々の観察です。ミヤマザクラは満開で、シウリザクラとウワミズザクラはまだ蕾でしたが比べて違いが分かりました。その他、ミズナラとコナラの比較も出来るような植林の仕方です。

その後林道に入り、マイヅルソウ、エゾタツナミソウ、エンレイソウの群落を楽しむことが出来ました。

(畑中 嘉輔 記)



エゾタツナミソウ

#### 旭川市 嵐山公園 '10年6月13日

天候 晴 掲載紙 道新

##### <夏の嵐山>

嵐山の観察会は昨年で区切りをつけ、今年から別な場所と考えたが、過渡期と考え、3月、6月、9月の3回、下見なしで行い、新しい場所の突哨山を2回行うことにした。

嵐山での6月開催は今年が初めて。昨年までは5月に行ってきた。5月は様々な花をつけた草花が多かったが、6月ともなると目立つ色の花は少なくなかった。

オオハナウドの群生、バイケイソウやオオアマドコロの花、コウライテンナンショウ、ヨブスマソウ、ホオノキなどが見られた。

午後の開催でもあり、昨年までの5月午前中と比べ、鳥の声も少なかった。セミの声が賑やかであった。ふもとの小さな池に、エゾサンショウウオの姿が見られた。

晴天で気温の高い日だったが、山の中は涼しく、初夏の嵐山の草花にふれ、爽やかな気分を味わうことが出来た。

(原部 剛 記)

#### 清田区 平岡公園 '10年6月13日

天候 晴 掲載紙

##### <人工湿原の変わる様子を観よう>

昨日は28℃。今日も朝から強い日射し、遠くYO SAKOIソーランの掛け声、上空に忙しそうにアオサギ（この時期から24時間交替で餌を運びます）。

谷間にかかる木橋を渡り林の中へ、タニギキョウ、ジンヨウイチヤクソウ、ササバギンラン、フデリンドウ、コケイラン、トケンラン等、谷間の湿地、サワフタギの真っ白なボンボリ花、オオナルコユリ、モイワサナエ、オオカワトンボ、そしてハクウン<sup>あずまや</sup>ボク、コクワの沢山の蕾。

大きな四阿で昼食後、人工湿地では満開まで4日位のヤナギトラノオ、サギスゲ、そしてヨツボシトンボ、エゾイトトンボ。

最後にホオノキの花に鼻をうずめ、みんなで酔っ払いました。

(佐藤 佑一 記)

#### 北見市 端野カタクリの森 '10年6月19日

天候 晴 掲載紙

##### <カタクリの実と初夏の花たち>

6月なのに真夏日の暑い日。5月には主役であったカタクリは実だけになり、エゾエンゴサク、アズマイチゲなどは姿を消した。季節に合わせてヤマブキショウマ、クリンソウ、フタリシズカ、チシマアザミ、コンロンソウ、サイハイランなど多くの花が観察できた。

入口付近の通路の両側にあったカラマツ林の伐採による環境の変化で、以前観察できた植物が減少したり、無かった植物が侵入していることを確認しながらの観察会でした。

森の主役であるカタクリを守るには、全体の環境を守っていくことが大事であることを理解してもらえたのではないかと思います。



ヤマブキシヨウマ

観察した花(本文記載外) コメツブウマゴヤシ、エゾムグラ、キツネノボタン、シロツメクサ、ムラサキツメクサ、セイヨウタンポポ、チシマアザミ、バイケイソウ、エゾタチカタバミ、エゾタツナミソウ、コハコベ、カナヤマイチゴ、アカバナ、カラマツソウ、オオヤマフスマ、ミヤマガマズミ、ギョウジャニンニク、コケイラン、オドリコソウ、マムシグサ、クサノオウ、ギンラン、  
(竹林 正昭 記)

蘭越町 白樺山 '10年6月20日

天候 曇 掲載紙

<低山で高山植物を観察しよう>

北海道自然観察協議会と蘭越自然探検隊の共催で、実施しました。

今年は雪融けが遅く、予定通り実施できるか心配でしたが、11日に下見に行った時には、登山道の雪もほぼ解けていたので、予定通り実施することにしました。

霧のため展望は今ひとつでしたが、多くの花が開花していて、楽しく観察できました。

咲いていた花は、アカモノ、エゾイチゲ、エゾノリュウキンカ。ハクサンチドリなどで、ゼンテイカの蕾やハイオトギリの群落も見られました。

白樺山は地域でも余り知られていません。気軽に登れて展望も良く、植物も豊かな山で、その良さと保全の大切さを地域の人たちに伝えていく為にも、今後も観察会を継続して実施して行こうと思います。

(大表 章二 記)

小樽市 オタネ浜 '10年6月26日

天候 快晴 掲載紙 道新、朝日、読売、毎日他

<奇跡の自然海岸 ハマナス咲くオタネ浜>

初の砂丘観察会として炎天下のオタネ浜に繰り出しました。

ここは、小樽発祥の地であり、札幌市に隣接しながらも奇跡的に“開発されていない”自然砂浜海岸です。貴重なのは、国内では極めて稀少になっている、汀線～砂浜～砂丘～後背湿地(沼)～後背林が見事な「成帯構造」を成していまだに残されているからです。



シヨウドウトツバメの巣

日本一のカシワ天然林、旧オタルナイ川跡の沼地、今や盛りのハマナスの群落地などオタネ浜を特徴づけるポイントごとに、各指導員のトークやクイズを効果的に織り込み、自然海岸の生物多様性をアピールしました。

この砂丘帯も昨今はバイクやバギー車に侵され、さらに現在、大規模な風力発電計画で狙われています。次世代のために、このオタネ浜を守り抜きたいです。

(後藤 美智子 記)

清田区 平岡公園 '10年7月11日

天候 曇 掲載紙

<人工湿原の変わる様子を観察しよう>

参院選投票日の静かな高曇りで、観察会最適日の予感。

ヤマグワの熟した黒い実、ミヤマザクラの透明感のある赤い実、堅そうな青いヤマブドウの実、どれも豊作です。

愛らしくイチヤクソウ、ジンヨウイチヤクソウ、ウメガサソウ、うつむき加減にシャクジョウソウ、ギンリョウソウ。木道へ下りると、羽化したばかりのオニヤンマがあちこちで羽根を広げています。

昼食後は人工湿地です。満開のオカトラノオ、オニシモツケもイトトンボには負けました。

(佐藤 佑一 記)

旭川市・比布町 突哨山 '10年7月11日

天候 曇晴 掲載紙

<夏の突哨山>

旭川の会員が「みんなで観察会を開こう」と活動を始めて3年目。最初の2年間は嵐山をフィールドにしていたましたが、今年は旭川市と比布町の境

## ＜夏の手稲山 登山道を散歩＞

今年から公共バスの運行がなくなりました。

霧雨の中での開催となりました。計画したルートを変更し、雨が激しくなったら戻ることを条件に出発しました。

出発してまもなく雨が降り始めましたが、エゾトリカブト、イケマ、エゾアジサイ、ノリウツギ、ヤナギラン、ツルニンジンなどの花やクロツリバナ、オオカメノキ、ナワシロイチゴなどの実を観察。



虫を呼ぶエゾアジサイの花

また、3種類の虫こぶをじっくり見たり、森の中でのキノコの大切さを確認しながら、おおよそ1時間半ほどで無事終了することができました。

(高田 敏文 記)

にある突哨山を主な活動場所としています。突哨山はカタクリの大群落で有名ですが、かつてはゴルフ場予定地として買い占められ、反対運動によって中断した後、市と町が公共緑地として買い取って保全したという経過があります。

農家の薪炭林や放牧地、畑として利用され、嵐山のような巨木の森ではないのですが、上川盆地に突きだした「緑の半島」とも呼ばれる地形で、小動物や植物の多様性はなかなかのものです。観察会開催は、春の花に人気が集まる突哨山を通年楽しんでほしい、という狙いもあります。

夏の盛りの観察会でしたが、木陰の歩道は風が通り、とても快適でした。観察指導員も、鳥類、草本、樹木と幅広い専門のメンバーがいて、お互いに教わりながら、ゆっくりと見ていきます。カタクリやエゾエンゴサクで埋め尽くされる早春の華やかさはありませんが、セリ科やシソ科の小さな花々はよく見ると可憐です。ヤマグワの実が熟していて、おいしいアクセントになりました。オオウバユリや珍しいラン科の花に見入ったり、樹林の成り立ちの説明を聞いたりして、充実した時間を過ごせました。

今後も秋、冬と突哨山の観察会を続ける予定です。また、10月16日には旭川市神楽岡公園で、自然ゲームなどを通じて森の楽しみ方、読み取り方を伝授する地方研修会を開催します。ぜひご参加ください。

(山本 牧 記)

## 会計からのお願い

### 会費の納入をお願いします

当会は、会員各位の会費によって運営されています。

おかげ様で順調に納入されています。

会費をまだ納めていない方は同封の振込用紙をご利用ください。

年会費は1,500円です。また、未納期間2年は3,000円となります。

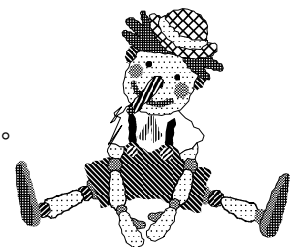
振込み用紙を確認の上、納入をお願いします。

★退会の申し出があるまでは北海道自然観察協議会の会員です。

届けが出されるまで、会費のお支払いをしていただきます。

★郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会

会計 畑中 嘉輔





豊平区 森林総研 (10/6/5)

小樽市 杉浦 正一

バス停から会場までの道がわからず困難しました。都会のなかに、こんな広い緑地が残っていることに驚きながら、見本林のなかを約2時間かけて、指導員の説明を受けました。

記憶に残っているものを書きますと、箒状に枝がのびたケヤキの葉の小さなコブにアブラ虫がいたこと、ミズナラとコナラの葉柄のちがいが、ヤマグワの葉にはランダムに切れ目が入ること、セイヨウミザクラはさくらんぼの、またクロミノウグイスカズラはハスカップのほんとうの名前だなどです。

指導員のお話はもちろんですが、参加者のおしゃべりにも学ぶものがありました。ハウノキの葉の利用、てんぷらにできる木の芽、ブナの葉の葉脈の特殊なこと等々です。

晴天にめぐまれ、エゾハルゼミの声をきき、カスミの中の藻岩山を遠望しながらのすばらしい日を過ごさせていただきました。

小樽市 オタネ浜 (10/6/26)

北区 佐藤 ゆきえ

オタネ浜、この辺りの海岸をアイヌの人々はオタ（砂浜）・ネイ（其の所にある）と呼んでいました。そこには砂浜を流れていた川（旧オタルナイ川）の跡である沼が今も残っています。

砂浜にはハマニンニク、コウボウムギ、コウボウシバ、ハマヒルガオ、ハマナス、スナビキソウ、カモガヤなどが自生していますが、砂浜のいたる所にゴミが散乱し、車やバイクの轍の跡が縦横無尽にあり痛々しいくらいでした。

私達が気を使って遠巻きに観察しているショウドウツバメの巣の横をランドクルーザーが音を立てて走り過ぎて行きました。

更にこの場所には今、論議を醸している風力発電の計画が持ちあがっています。低周波問題はもちろんの事、風車が立つことにより、このような自然がますます破壊され、渡り鳥の通過地点でもあるこの場所は鳥達にも多くの被害を及ぼすことでしょう。悲しい一日でした。



えぐられる砂丘

南区 滝野学園 (10/7/31・8/1)

清田区 藤本隆汰 (11才)

今日のような、ふだん体験できないような事をさせてもらって、本当に感謝しています。

例えば、川での虫、魚とりは、虫、魚をとる以前に、僕の家の上には川がない。星空は灯りが邪魔で見えないなど、環境が悪くて体験不可能なことなどです。

そういった、「自然ならではの」の楽しい思い出を、友達とつくることができました。

以前5年の宿泊学習で一度泊まらせてもらいましたが、そのときは、「仲間」を意識してなかなか、「滝野」の「自然」を楽しむことができませんでした。今回は、ぞんぶんに「滝野」の「自然」を楽しむことができました。

ハエやハチがふつうに部屋に沢山いることには大変おどろきましたが、それも、「滝野」の「自然」だと思い、とても不思議な光景が見られました。

また、水が地下水であることにもおどろきました。我が家の水とは比べものにならないくらいのおいしさには感動しました。

「森」も、セミの鳴き声、鳥の鳴き声などにも、「滝野」の「自然」を、体感できました。

「川」「虫」「魚」「星」「水」そして「森」、2日間をぞんぶんに、「滝野」の「自然」を楽しませてもらいました。

最後に、僕らの生活を支えてくださった皆様に、感謝しています。とても楽しい2日間をありがとうございました。

手稲区 手稲山 (10/8/8)

石狩市 檜山 由美子

朝から雨が降っていて、どうしようかと迷いつつ行って見ました。昨年参加してヤナギランの群生地に行ったのですが、お花が終わっていて今年はどうかなと思って参加しました。天気が悪かったので、近くのヤナギランが咲いている所まで案内してもらい、今年は咲いていて良かったです。

イケマ、ウド、エゾアジサイ、オオカメノキ、クロツリバナ、ツルアジサイ、ツルニンジンなどを見ることができて良かったです。あとフキバッタがいて、フキを食べて生きている昆虫がいるのに驚きました。来年はぜひヤナギランの群生地を見たいです。

## 2010年度 観 察 会 ('10年9月25日～'10年11月3日)

※日程や下見の日時は連絡先指導員に確認してください。

| 年月日           | テーマ  | 観察地                  | 集合場所・時刻   | 交通機関  | 下見                | 連絡先   |
|---------------|--|----------------------|---|---|-------------------|---|
| 9月25日<br>(土)  | 「嵐山公園」観察会<br>秋の嵐山                                      | 旭川市嵐山公園              | 嵐山公園センター(北邦野草園隣接)<br>9:30集合～11:30解散<br>駐車場:センター手前の橋下河川敷<br>(JR旭川駅～北西に約7Km 約20分)<br>小雨決行 | 「旭川電気軌道バス」西武旭川店A館<br>乗り場14 3番8:38発<br>「北邦野草園」8:58頃下車徒歩約15分<br>(バスの時間は3月現在のものです) |                   | 原部 剛<br>080-6092-4347<br>問合せ19時以降             |
| 9月25日<br>(土)  | 「野幌森林公園(大沢口)」観察会<br>秋の野幌の森を歩く(子供連れ<br>歓迎)              | 江別市<br>野幌森林公園<br>大沢口 | 野幌森林公園大沢口駐車場<br>10:00集合～12:30解散   | JRバス新札幌駅発 循環バス83番,<br>JR森林公園駅→徒歩8分国道12号線開<br>拓の村入口バス停→循環バス,<br>「文教台南町」下車、徒歩10分  | 9/12(日)<br>10:00～ | 横山武彦<br>011-387-4960                          |
| 10月2日<br>(土)  | 小田観音歌碑<br>木や草の秋の実り・キノコを求<br>めて山道を歩く                    | 小樽市緑地区               | 小樽商業高校玄関前<br>9:10集合～12:00解散   | 小樽駅発 「小樽商大」行き乗車<br>「商業高校前」下車  |                   | 岡部 実<br>090-5985-2959                         |
| 10月3日<br>(日)  | 「大谷地の森」観察会<br>秋を探そう                                    | 札幌市厚別区<br>大谷地の森公園    | 地下鉄東西線<br>大谷地駅1階バスターミナル1F<br>10:00集合～12:00現地解散  | 地下鉄東西線<br>大谷地駅下車  | 前日<br>10:00～      | 根岸 徹<br>011-891-0556                          |
| 10月3日<br>(日)  | 「蘭越町名駒観察会」<br>サケの遡上を観察しよう                              | 蘭越町名駒                | 目名川橋付近の駐車場<br>10:00集合～12:00解散<br>長靴着用が便利<br>小雨決行 共催 蘭越自然探検隊                             | 公共交通機関なし<br>自家用車かJR蘭越駅よりタクシー  |                   | 大表章二<br>0136-57-5610                          |
| 10月3日<br>(日)  | 「秋の錦大沼」観察会<br>秋の花・実 彩を求めて                              | 苫小牧市<br>錦大沼総合公園      | 錦大沼総合公園駐車場<br>8:50集合 9:00～12:00解散<br>雨天原則決行・強風日中止<br>昼食持参・あれば双眼鏡・ルーペ・<br>図鑑など持参         | 自家用車のみ<br>日程未定ですが参加希望者は<br>連絡先指導員へお問合せください。                                     | 下見有り<br>要問合せ      | 佐々木昌治<br>0144-67-2022                         |
| 10月10日<br>(日) | 「平岡公園」観察会<br>人工湿原の変わる様子を観よう                            | 札幌市清田区<br>平岡公園       | 平岡公園第一駐車場<br>(厚別中央通沿い)<br>10:30集合～13:30解散<br>昼食持参                                       | 地下鉄東西線<br>大谷地駅発中央バス「大66ジャスコ平<br>岡店」行、「平岡5条3丁目」下車(前方<br>左の緑地歩道を200m、徒歩5分)        | 当日<br>9:00～       | 佐藤佑一<br>011-881-5336                          |
| 10月17日<br>(日) | 「秋の円山公園」観察会<br>木の実と紅葉                                  | 札幌市中央区<br>円山公園       | 地下鉄東西線円山公園駅<br>1階バス待合所<br>10:00集合～12:00解散   | 地下鉄東西線 円山公園駅下車  |                   | 山形誠一<br>011-551-5481                          |
| 10月23日<br>(土) | 「長橋なえぼ公園」観察会<br>晩秋の森を歩き、生き物達の不<br>思議な生活と冬ごもりの準備を<br>見る | 小樽市<br>長橋なえぼ公園       | なえぼ公園「森の自然館」前<br>9:00集合～12:00解散   | 小樽駅前発 中央バス<br>「塩谷」「オタモイ」方面行き乗車<br>「苗圃通り」下車、徒歩1分                                 |                   | 後藤言行<br>0134-29-3338                          |
| 10月24日<br>(日) | 「晩秋のウトナイ湖」<br>ハクチョウ(渡り鳥)の観察と<br>森のお散歩                  | 苫小牧市<br>ウトナイ湖周辺      | 環境省ウトナイ湖保護センター前<br>9:30集合～12:00解散<br>必要に応じて昼食持参   | 新千歳空港<br>9:15発道南バス「苫小牧」行き乗車<br>「ウトナイ湖」下車<br>無料駐車場有                              | 10/17(日)          | 谷口勇五郎<br>0144-73-8912<br>宮本健市<br>0123-28-4720 |
| 10月31日<br>(日) | 「モエレ沼公園」観察会<br>渡り前集結の鳥たち                               | 札幌市東区<br>モエレ沼公園      | モエレ沼公園 東口駐車場<br>9:40集合～12:00解散<br>防寒の用意   | 地下鉄東豊線 環状通東駅<br>9:10発市営バス「札幌69番」<br>「モエレ沼公園入口」下車                                |                   | 須田 節<br>011-752-7217                          |
| 11月3日<br>(水)  | 「秋の北大構内」観察会<br>イチョウ並木とエルムの紅葉を<br>楽しもう                  | 札幌市北区<br>北海道大学構内     | 北海道大学正門<br>10:00集合～12:00解散  | JR札幌駅北口から徒歩5分<br>地下鉄南北線 さっぽろ駅、北12条駅<br>から徒歩10分                                  | 当日<br>9:00～       | 須田 節<br>011-752-7217                          |

### 協議会行事他

| 年月日                    | テーマ                     | 開催地                  | 集合場所・時刻  | 内 容                             | 連絡先                           |
|------------------------|-------------------------|----------------------|--|---------------------------------|-------------------------------|
| 2010年<br>10月16日<br>(土) | 地方研修会in旭川<br>森を読もう、楽しもう | 旭川市神楽岡公園             | 旭川市緑の相談所(公園内)<br>開始 10:00～15:00終了              | ※詳細については本誌p.7の案内参照              | 原部 剛<br>(fax)<br>0166-37-2462 |
| 2010年<br>11月27日<br>(土) | 忘年会                     | 未定                   |  | ※詳細については次号(97号)に掲載              | 須田 節<br>011-752-7217          |
| 2011年<br>2月 5日<br>(土)  | 救急救命講習会                 | 札幌市中央区北2西7<br>かでの2・7 | かでの2・7 920 会議室<br>講習時間 9:30～16:30<br>必要に応じ昼食持参 | ※詳細については次号(97号)に掲載、<br>案内を同封します | 須田 節<br>011-752-7217          |

【事務局だより】



- ☆ 2011年度の日本自然保護協会共催で自然観察指導員講習会開催の申し込みをいたしました。詳細は決定次第お知らせいたします。受講者の募集など会員みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。
- ☆ 7/24～7/25端野自然愛好会共催の道北全道研修会は好評のうちに終了しました。計画・立案に多くの方々から情報をお寄せいただきましたことを感謝申し上げます。ありがとうございました。

☆ 観察会追加・変更の連絡は、観察部山形、広報担当岡田、事務局須田、HP担当竹林へお願いします。観察会報告は観察部山形へお願いします。

【理事会だより】 <理事会議事録から抜粋>

- ☆ 第2回理事会 '10/8/25 札幌市エルプラザ
  - ◇ 7/24～7/25 道北全道研修会終了。地域会員の情報や地元NPOなどと連絡をとり諸条件が整えられるなら、担当者が下見など現地に赴かなくても研修会実施が可能であることがわかりました。しかし、来年度以降は研修会下見の予算計上が必要と思われます。
  - ◇ 7/31～8/1 第21回滝野の集いについて。今年度は全道研修会の都合で下見を2回としたが支障はありませんでした。
  - ◇ 日本自然保護協会共催の自然観察指導員講習会を、来年度実施にむけ、締切の9月に日本自然保護協会へ申込をする。詳細は決まり次第お知らせをいたします。
  - ◇ 11/27忘年会の日に、会員同士や地域の交流・研修などの意味合いから会員の中から講師役を募って、講話の時間を持つようにします。
  - ◇ 観察会で「ダニ」に刺され傷害保険が適用されました。事故受付の時に観察会最中に発生したことの証明や参加者名簿が必要になります。事故発生については事務局へ連絡をお願いいたします。



北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

|                  |        |        |                     |  |
|------------------|--------|--------|---------------------|--|
| 会費や寄付は           | -----> | 郵便振替口座 | 02710-1-8768        | 北海道自然観察協議会   |
|                  |        | -----> | 会 計                 | 畑中 嘉輔 札幌市豊平区西岡3条13丁目12-13                                  |
|                  |        |        |                     | Tel/Fax 011-581-5439 E-mail aiai-h@f4.dion.ne.jp           |
| 観察会保険料は          | -----> | 郵便振替口座 | 02770-9-34461       | 北海道自然観察協議会観察保険料  |
|                  |        | -----> | 観察会担当会計             | 小川 祐美 小樽市  |
|                  |        |        |                     | Tel/Fax 0134-51-5216 E-mail streamy@estate.ocn.ne.jp       |
| 観察会報告書・資料は       |        | 観 察 部  | 山形 誠一               | 札幌市中央区双子山1丁目12-14  |
|                  |        |        |                     | Tel/Fax 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp      |
| 研修会関係は           | -----> | 研 修 部  | 北道 米雄               | 札幌市北区北10条西2丁目9-1 704号                                      |
|                  |        |        |                     | Tel 011-299-1343 E-mail kitamichi.yoneo@violet.plala.or.jp |
| 退会、住所変更の連絡他は     | -----> | 事 務 局  | 須田 節                | 札幌市東区北40条東9丁目1-13  |
|                  |        |        |                     | Tel/Fax 011-752-7217 E-mail zan00711@nifty.com             |
| <b>事故発生等緊急時は</b> | -----> |        | アスカ・リスクマネジメント 担当本間氏 | Tel 011-873-2655   |
| 投稿や原稿は           | -----> | 編 集 部  | 竹林 正昭               | 北見市端野町3区378-3  |
|                  |        | HP担当   |                     | Tel/Fax 0157-56-3357 E-mail hzx01204@nifty.com             |

表紙写真 竹林正昭



自然観察:2010年 9月 15日/第96号 年4回発行  
 (会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれています)  
 発 行 **北海道自然観察協議会**  
 編 集 北海道自然観察協議会編集部